

午歳大吉

け駿馳と日本
馬のりこ
ううふ和名

阿蒙院人持渡

駱駝二疋

長サ一丈五尺 高サ九尺



美丸馬

めでたきと午秋らく結みみんえり
午もた敷をうちをきめり

此馬院の異國より田舎よりかひ無耕作の助と
ありひの遠路の用事小車より一日の馬の足も
たききとあを肩より時おのきの足と三つお
控をひけし自堂より馬をひきさせて後千余斤の
ありさありとも立あがるよい安しまことふ
人世の重法希ひの後教るるゆへ肉内の祈
禱とある事疑ひし此馬をとりあへ
前より馬の足難きさきさき馬をぬき
子孫長くと

或のこの馬

あうそまうまうの
まよふけとるる馬を余り車
妙くさうけゆへ 茶院人あ
けりてまうまうの

あまこの馬



馬喰町三
本林屋板